

授業科目名： 研究発表演習 I (2)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 橋本 修 言語学分野教員全員
■授業の到達目標及びテーマ 自らの研究内容を論理的に発表する能力、ならびに言語横断的な議論に参加できる能力を身につける。			
■授業の概要 原則として中間評価論文を執筆した言語学分野に所属する学生が、学生および教員（他領域を含む）を前にその内容を発表し、領域横断的な議論を行う。			
■授業計画 原則として毎月最終木曜日 6 時限に実施する。具体的なスケジュールは追って提示する。 1学期：オリエンテーション・学生の発表 2学期：学生の発表および招待講師の講演 3学期：学生の発表（場合により招待講師の講演含む） 発表の際には、各自ハンドアウトを用意すること。その際、英語と日本語以外の例文についてはグロス and/or 日本語ないし英語による訳を付すことが望ましい。 4月のオリエンテーションで具体的な日程を決める。			
■テキスト			
■参考書			
■学生に対する評価 毎回の出席と 1 回の発表を義務付ける。それぞれの発表、ならびに議論への参加を総合的に評価する。			

授業科目名： 理論言語学の方法と実践 (2)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹沢 幸一・加賀 信広
■授業の到達目標及びテーマ <p>理論言語学、特に生成統語論について、その基本的な考え方と分析法を学ぶことにより、独力で関連の専門論文を読みこなし、さらに先端の理論的座標に立って文法研究ができるようになる。</p>			
■授業の概要 <p>生成統語論について、その理論的な考え方と方法論を概観するとともに、具体的なデータに基づいて言語研究を実践するためのトレーニングを行なう。</p>			
■授業計画 <p>1 学期：生成統語論の基本を学び、原理とパラメータの考え方の下で具体的な文法現象について分析を行なう。</p> <p>2 学期：生成統語論の最近の動向に目を向け、日英語の文法現象についてのより進んだ説明法について考察する。</p>			
■テキスト 適宜、授業の中で指示ないし紹介する。			
■参考書 適宜、授業の中で指示ないし紹介する。			
■学生に対する評価 <p>評価は、授業への参加度と学期末レポートにより行なう。</p>			

授業科目名： 総合文学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青柳悦子・加藤百合・ 浜名恵美・吉原ゆかり・斎藤一
■授業の到達目標及びテーマ <p>参加者が、筑波大学外の学会等において、時間内に明快な発表と質疑応答ができるようにトレーニングをおこなう。なお、中間論文や博士論文の構想発表も兼ねる。</p>			
■授業の概要 <p>多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。発表者は、事前にメーリングリスト等によって発表原稿を教員ならびに参加学生に配布すること。</p>			
■授業計画 <p>各学期第一回目の授業において、発表者の順番を決定する。</p>			
■テキスト <p>発表者が事前に選び周知する。</p>			
■参考書			
■学生に対する評価 <p>事前の配布原稿、当日配布の資料、発表と質疑応答を見て、総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 文学理論研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青柳 悦子
■授業の到達目標及びテーマ <p>専門研究書および研究論文を十分に読みこなして、それを自分の研究に役立てていく能力を磨く。同時に、受講者のさまざまな研究に触れて、文学研究の幅を広げる。</p>			
■授業の概要 <p>各受講生が自分の研究に必要な文学研究書・研究論文を紹介しながら、的確な位置づけをおこない、それをどう自分の研究に生かすのかを発表する。出席者は発表者の提供する資料を読み、発表を聞いた上でディスカッションに参加する。</p>			
■授業計画 <p>4月中に発表担当の割り当てを決める。</p>			
■テキスト <p>発表に応じて示される。</p>			
■参考書 <p>発表に応じて示される。</p>			
■学生に対する評価 <p>授業への参加態度による。試験はおこなわない。</p>			

授業科目名： 文学理論演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青柳悦子
■授業の到達目標及びテーマ フランス語で専門研究書や専門研究論文を読みこなし、自分の研究に生かす能力を身につける。			
■授業の概要 フランス語で文学理論・文学言語論の論文を読む。			
■授業計画 毎週2-3ページずつテキストを訳読するとともに背景知識を広げ、考察を深める。			
■テキスト Jean Bessière, <i>Dire le littéraire; points de vue théorique</i> , Éd. Pierre Mardaga, 1990			
■参考書 授業中に指示する。			
■学生に対する評価 授業への参加態度による。試験はおこなわない。			

授業科目名： 文学文化論研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 齋藤 一
■授業の到達目標及びテーマ (1) テキストを精読する技術を身につける。 (2) 批評理論の必要性について、具体的に学ぶ。			
■授業の概要 「島」「群島」「半島」といった場の可能性について、日本語で書かれた作品を読みながら考える。			
■授業計画 各学期の第一回目の授業において、受講者とディスカッションした上でテキストとスケジュールを決定するが、一学期は「島」についての理論的概説をおこない、二学期と三学期は中編小説あるいは詩を精読する予定である。			
■テキスト 李静和『つぶやきの政治思想』を読む予定であるが、使用テキストは受講者のテーマや関心事を考慮して決定する。			
■参考書 大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006年）、今福龍太・吉増剛造『アーキペラゴ——群島としての世界へ』（岩波書店、2006年）			
■学生に対する評価 担当回の発表内容、議論への参加の度合いなどを勘案し、総合的に評価する。			

授業科目名： 文学文化論演習（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 齋藤 一
■授業の到達目標及びテーマ (1) テキストを精読する技術を身につける。 (2) ポストコロニアル批評について、具体的に学ぶ。 ★ (3) 小論文を執筆し、参加者全員で合評会をおこなう。			
■授業の概要 参加者の興味や関心に応じてテキストを決定するが、特にポストコロニアル批評に留意する。また、受講者による小論文執筆と合評会を重視する。			
■授業計画 各学期の第一回目の授業において、受講者とディスカッションした上で、テキストとスケジュールを決定するが、一学期はポストコロニアル批評についての概説、二学期は作品精読による演習、三学期は小論文執筆と合評会となる予定である。			
■テキスト 一学期はポストコロニアル批評の入門書（アルンダティ・ロイ『帝国を壊すために』など）を、二学期と三学期は、日本語で書かれた短い小説（中島敦など）や詩（吉増剛造など）を読む予定である。			
■参考書 大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006年）			
■学生に対する評価 担当回の発表内容、議論への参加の度合い、小論文などを勘案し、総合的に評価する。			

授業科目名： 文学伝承論研究（2）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山 学
■授業の到達目標及びテーマ ギリシア語写本文献学の基礎を身につける。併せてビザンティン・ギリシア教父の思想史にも言及する。			
■授業の概要 ビザンティン時代9－11世紀手写本伝承研究。			
■授業計画 <i>Greek Literary Hands A.D.400-1600</i> , ed. Ruth Barbour をテキストとして、講義を交えながら進めてゆく予定。			
■テキスト <i>Greek Literary Hands A.D.400-1600</i> , ed. Ruth Barbour.			
■参考書 授業中に適宜指示する。			
■学生に対する評価 授業中の演習成績による。			

授業科目名： 文学伝承論演習（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山 学
■授業の到達目標及びテーマ ルネサンス期ラテン語文献の読解力を身につける。併せてヨーロッパの近代思想史にも言及する。			
■授業の概要 デカルト『省察』ラテン語原典講読。			
■授業計画 René Descartes, <i>Meditationes de prima philosophia</i> をテキストとして読みすすめてゆく予定。			
■テキスト René Descartes, <i>Meditationes de prima philosophia</i> .			
■参考書 授業中に適宜指示する。			
■学生に対する評価 授業中の演習成績による。			

授業科目名： 文学交流論研究（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 吉原 ゆかり
■授業の到達目標及びテーマ			
■授業の概要 文学交流に関わる英語研究論文を読む。			
■授業計画			
■テキスト			
■参考書			
■学生に対する評価			

授業科目名： 文学交流論演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 吉原ゆかり
■授業の到達目標及びテーマ			
■授業の概要 文学交流論に関わるリサーチと研究の実際を学ぶ			
■授業計画			
■テキスト			
■参考書			
■学生に対する評価			

授業科目名： 比較文学演習（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 加藤 百合
■授業の到達目標及びテーマ 西洋文学を規範にして日本文学が変質する過程を考える。基本的な時代認識を涵養する。			
■授業の概要 明治10年代から日露戦争の頃までの文芸の変化について、西欧文学移入の問題を考える。			
■授業計画 当時大きな影響力を持った、或いは日本文学を問い直したようなテキストを実際に読んでいく作業をおこなう。分担でテキスト講読とテーマ研究を行う。			
■テキスト 履修者と相談して開講後共通に読むテキストを決める。適宜分担者が取り上げる副次テキストを皆も読む。			
■参考書			
■学生に対する評価 担当時間の準備と、質問や補足などによる授業参加による。			

授業科目名： 西洋古典学研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山 学
■授業の到達目標及びテーマ ギリシア語散文の読解を通じて基礎理論を身につける。韻文文学史にも言及し、併せて読解力を養う。			
■授業の概要 古典ギリシャ文学研究。アリストテレス『詩学』原典講読。			
■授業計画 <i>Aristotle: Poetics</i> , ed. D. W. Lucas, Oxford 1968をテキストとして、読み進めてゆく予定。			
■テキスト <i>Aristotle: Poetics</i> , ed. D. W. Lucas, Oxford 1968.			
■参考書 授業中に適宜指示する。			
■学生に対する評価 授業中の演習成績による。			

授業科目名： 西洋古典学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山 学
■授業の到達目標及びテーマ ラテン語散文文学の文学史的視点を身につける。韻文文学史にも言及し、併せて読解力を養う。			
■授業の概要 古典ラテン文学研究。キケロ修辞学書原典講読。			
■授業計画 <i>M. Tulli Ciceronis Rhetorica</i> , ed. A. S. Wilkins, Oxford Classical Texts 1902をテキストとして、読み進めてゆく予定。			
■テキスト <i>M. Tulli Ciceronis Rhetorica</i> , ed. A. S. Wilkins, Oxford Classical Texts 1902.			
■参考書 授業中に適宜指示する。			
■学生に対する評価 授業中の演習成績による。			

授業科目名： 総合文化研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 浜名 恵美
■授業の到達目標及びテーマ (1) 翻訳理論・研究の基本概念と方法を習得する。 (2) 翻訳されたテキストを理論的に分析し、批判的に検討することができる力をつける。			
■授業の概要 講義、講読、研究発表、討論などを取り入れた翻訳研究を通じて、文化について総合的に考察する。			
■授業計画 1 学期：Susan Bassnett and Harish Trivedi, eds., <i>Post-Colonial Translation: Theory and Practice</i> (London and New York: Routledge, 1998/99) 輪読（予定）。 2 学期：学生の発表と翻訳理論・研究文献講読（テキストは学生と相談して決める予定。英語文献でも日本語文献でも可）。 3 学期：学生の発表と翻訳理論・研究文献講読（テキストは学生と相談して決める予定。英語文献でも日本語文献でも可）。			
■テキスト 1 学期：Susan Bassnett and Harish Trivedi, eds., <i>Post-Colonial Translation: Theory and Practice</i> (London and New York: Routledge, 1998/99)（予定）。2 学期・3 学期：未定。			
■参考書 開講後、随時指示する。			
■学生に対する評価 出席、発表、討論への参加・貢献度、期末レポートなどを総合して評価する。			

授業科目名： 総合文化演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 浜名 恵美
■授業の到達目標及びテーマ (1) 文学・文化系学位論文の書き方を修得する。 (2) 各自の研究をまとめ、その成果を発表する。			
■授業の概要 文化に関わる対象やテーマに関して、参加者各自の研究成果を発表し、それについて議論する。			
■授業計画 1 学期：（今年度）提出予定の博士論文の研究対象、課題設定、期待される成果と意義、論文構成等の発表と検討 2 学期：各自の研究の成果発表と検討 3 学期：各自の研究の成果発表と検討			
■テキスト プリント配布予定。			
■参考書 開講後、随時指示する。			
■学生に対する評価 出席、発表、討論への参加・貢献度、期末レポートなどを総合して評価する。			

授業科目名： 比較文化論研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 平石 典子
■授業の到達目標及びテーマ 比較文学・比較文化という研究方法について学ぶ。			
■授業の概要 比較文学・比較文化の手法を用いて、テキストを分析する。			
■授業計画 1 学期：文学・文化研究において、比較文学・比較文化研究がどのような成果を挙げきたか、具体的な事例を分析しながら考察する。 2 学期・3 学期：比較文学・文化の手法を用いたテキスト分析を実践してみる。受講者は1回以上の口頭発表を担当し、テキストの分析を試みる。発表に続くディスカッションで、考察を深める。			
■参考書 授業時に適宜配布、または指示する。			
■学生に対する評価 ・口頭発表 ・ディスカッションへの貢献度 ・期末レポート の3点を総合的に評価する。			

授業科目名： 比較文化論演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 平石 典子
■授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・比較文学・文化の手法で研究を展開する。 ・外国語（日本語が母語の学生は英語、日本語以外を母語とする学生は日本語）で論文を作成する技術を身につける。 			
■授業の概要 比較文学・文化の手法を用いて、外国語で小論を作成する。			
■授業計画 1 学期：外国語で論文を作成するためのスキルを習得する。 受講者それぞれが小論のテーマを決定し、構想を発表する。 2 学期：受講者それぞれが1回以上の口頭発表を担当し、クラスでディスカッションすることによって、内容を深めていく。 集中：外国語での小論を完成させる。			
■参考書 授業時に適宜配布、または指示する。			
■学生に対する評価 <ul style="list-style-type: none"> ・口頭発表 ・ディスカッションへの貢献度 ・期末レポート の3点を総合的に評価する。			

授業科目名： 日本文献学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山 佳奈子
■授業の到達目標及びテーマ 問題を自分のものとするために必要な知識と、調べる技術を身につける。			
■授業の概要 日本の古典作品を研究する際、文献学的な問題として、基本的にわきまえておくべきこと、必要なことを学ぶ。			
■授業計画 第1回 文献学概説 第2回～第10回 文献学演習 第11回以降 調べる演習			
■テキスト 授業中に指示する。			
■参考書 授業中に指示する。			
■学生に対する評価 出席と演習参加による。			

授業科目名： 和漢比較文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 谷口 孝介
■授業の到達目標及びテーマ ①日本文学の特質を漢文学と比較対照することで明らかにする。 ②日本における漢文学受容の具体的様相を追究する。			
■授業の概要 日本文学に多大の影響を与えた『白氏文集』巻六の閑適詩を注解する。そのさい日本に伝存する旧鈔本と中国の刊本との異同に着目しつつ、彼此の文学観について考察を及ぼす。			
■授業計画 第1回～第2回 : 講義概要と方法の説明 第3回～第6回 : 239番詩について 第7回～第10回 : 240番詩について 第11回～第14回 : 241番詩について 第15回～第18回 : 242番詩について 第19回～第22回 : 243番詩について 第23回～第26回 : 244番詩について 第27回～第30回 : 資料の整理とまとめ			
■テキスト 初回の講義時に指示をする。			
■参考書 平岡武夫・今井清校定『白氏文集』第1冊、京都大学人文科学研究所、1971年			
■学生に対する評価 演習発表及び演習参加態度により評価する。			

授業科目名： 日本古代文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 谷口 孝介
■授業の到達目標及びテーマ ①日本古代文学の表現を解析する能力を身に付ける。 ②日本古代文学に関する文献の扱い方に習熟する。			
■授業の概要 『古今和歌集』の表現形成を探究する。『万葉集』歌との異同に配慮し、文化史上の画期に位置する『古今和歌集』所載の遍昭歌を一首ずつ取りあげて、注釈的研究を試みる。そのさいに詩的言語の注釈行為についてのじゅうぶんな反省を行う。			
■授業計画 第1回～第2回：講義概要と演習方法の説明 第3回～第7回：『古今和歌集』遍昭歌(1) 第8回～第12回：『古今和歌集』遍昭歌(2) 第13回～第17回：『古今和歌集』遍昭歌(3) 第18回～第22回：『古今和歌集』遍昭歌(4) 第23回～第27回：『古今和歌集』遍昭歌(5) 第28回～第30回：資料の整理とまとめ			
■テキスト 初回の講義時に指示をする。			
■参考書 初回の講義時及び随時指示をする。			
■学生に対する評価 演習発表及び演習参加態度により評価する。			

授業科目名： 日本中古文文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 秋山佳奈子
■授業の到達目標及びテーマ 『源氏物語』注釈史について、考察をすすめる技術、知識を得る。			
■授業の概要 『源氏物語』梗概書及び、『源氏物語』に関わる偽書を読む。文学史の諸問題を意識し、享受者に、武士、連歌師が加わったことで、この作品の理解がどのように変わっていったかを具体的に考える。			
■授業計画 第1回～第10回 文学史の中の『源氏物語』 第11回以降 『源氏物語』注釈演習			
■テキスト 授業中に指示する。			
■参考書 授業中に指示する。			
■学生に対する評価 出席と演習参加による。			

授業科目名： 日本中世文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 近本 謙介
■授業の到達目標及びテーマ 鎌倉時代の説話集『沙石集』を素材として、集の編纂原理と方法について考究し、併せて編者無住の知の体系との関わりについて考える。			
■授業の概要 『沙石集』を読む。仏教史に関わる説話を中心に提起して分析することで、『沙石集』成立時期における各宗派の問題等を意識しながら、無住の編纂意識を探る。			
■授業計画 第1回：『沙石集』の研究史と現在の状況についての確認 第2回：同上 第3回：編者無住に関する研究史と現在の状況についての確認 第4回：個別の説話についての検討(1) 第5回：個別の説話についての検討(2) 第6回：各自の検討対象話の選定 第7回：各自の研究課題に関する報告と議論 (以下、継続)			
■テキスト 特に使用しない。			
■参考書 各自の発表と議論の中で提示する。			
■学生に対する評価 研究対象と課題に対する取り組み方と、そこから得られる成果を重視する。			

授業科目名： 日本中世文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 近本 謙介
■授業の到達目標及びテーマ <p>中世文学研究を進める上で必要な諸問題を熟知し、各自の新たな研究対象や方法を模索しながら、発表と議論を通じて構想をまとめてかたちにしていく。</p>			
■授業の概要 <p>研究対象や方法が多様化する中世文学研究の現状をふまえて、各自が新たな視点から問題を設定して、その内容について議論する。</p>			
■授業計画 <p>第1回：中世文学研究の現状についての確認と議論 第2回：各自の課題に関する確認と議論 第3回：同上 第4回：各自の研究課題に関する報告と議論 (以下継続) * 年間2回の報告を通じて、レポート乃至論文をまとめる。</p>			
■テキスト 授業時に指示する			
■参考書 授業時に指示する			
■学生に対する評価 <p>授業への出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。</p>			

授業科目名： 日本近世文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 清登 典子
■授業の到達目標及びテーマ 戸時代における土地の詩的イメージについて具体的な作品の検討を通じて明らかとすることを旨とする。			
■授業の概要 近世の詩歌、紀行などにおいて歌枕「筑波山」がどのように表現されているかを調べることで、「筑波山」の詩的イメージ（本意）の近世期における形成と展開につき検討する。			
■授業計画 第1回 授業内容、作品調査、発表の方法について説明し、調査担当作品につき割り当てる。 第2回～10回 近世の俳諧作品における歌枕「筑波山」の詩的イメージについて、担当者による調査結果の発表と受講者による討議を通じて検討していく。 第11回～20回 近世の紀行文における歌枕「筑波山」の詩的イメージについて、担当者による発表と受講者による討議を通じて検討していく。 第21回～30回 近世の和歌・漢詩作品における歌枕「筑波山」の詩的イメージについて、担当者による発表と受講者による討議を通じて検討していく。			
■テキスト 業時に指示する			
■参考書 授業時に指示する			
■学生に対する評価 授業への参加状況、発表内容、討議への参加状況などを総合して評価する。			

授業科目名： 日本近世文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 清登典子
■授業の到達目標及びテーマ <p>近世の教養の源泉の一つであった謡曲が、どのように近世文藝である俳諧作品に生かされているか、またそれを絵画作品とする時にどのような趣向が凝らされているかについて検討し、近世的表現の特質につき理解を深めることを目指す。</p>			
■授業の概要 <p>謡曲に基づく発句作品と挿画とによって構成される絵俳書『俳度曲』を版本で読み、発句および挿画に込められている趣向を読み解くことで、近世文芸の表現上の特色について理解する。</p>			
■授業計画 <p>第1回 授業内容、取り上げる作品およびその調査方法、発表方法について説明し、それぞれの発句の担当者を決定する。 第2回 謡曲とその近世への影響について概説する。 第3回～10回 謡曲「難波」から「野守」までに基づく発句と挿絵につき担当者による発表と受講者による討議により検討を加える。 第11回～20回 謡曲「佐保山」から「東岸居士」に基づく発句と挿絵につき担当者による発表と受講者による討議により検討を加える。 第21回～30回 謡曲「西王母」から「花月」に基づく発句と挿絵につき担当者による発表と受講者による討議により検討を加える。</p>			
■テキスト 授業時に指示する			
■参考書 授業時に指示する			
■学生に対する評価 <p>授業への出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。</p>			

授業科目名： 日本近代文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 新保 邦寛
■授業の到達目標及びテーマ 幸田露伴の作品が内包する文学観や創作方法を明らかにすることで、既存の文学史に変更を迫る。			
■授業の概要 幸田露伴の作品を読む。研究動向を把握しつつ、作品の注釈を可能な限り行うことで、従来の見解が変わるかどうか検討する。			
■授業計画 第1回～第10回：初期小説のうち、特に解釈がわれている作品に注目し、たとえば注釈を徹底することによって作品の透明性が高まるかどうか、検討する。 第11回～第20回：後期作品を取り上げ、同様の観点、同様の手続きで検討する。 第21回以降：幸田露伴の文学が内包する、いわゆる〈坪内逍遙〉流の近代小説とは異質な文学観や創作方法を焙り出し、近代日本文学(史)を考え直すべく討論してみたい。			
■テキスト テキストは原則、初出のものを用いる。			
■参考書 取り上げた作品に係わる露伴の研究書をすべて参考書とする。			
■学生に対する評価 発表の内容と出席で評価する。			

授業科目名： 日本近代文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 新保邦寛
■授業の到達目標及びテーマ 博士論文、中間評価論文を念頭に置きつつ、30～40枚程度の雑誌論文発表論文を作成する。			
■授業の概要 各自、自身の研究テーマに従って作品を選び、研究発表を行う。但し、それが当該研究の進展に資するものである点を、明確に打ち出すこととする。			
■授業計画 第1回～第10回：各自の研究テーマに従って作品を決め、発表するが、まずは、作品の研究状況と課題の提示、必要とされる資料の選定などを通して、論文のアウトラインを明確に打ち出し、参加者に問う。 第11回～第20回：次に、各自、具体的な作品解釈に基づいた研究発表を行い、参加者の批判を受ける。 第21回以降：各自、作成した論文を示し、参加者の意見を求める。			
■テキスト 発表者が用意して出席者に配布する。			
■参考書 参考書の選択も演習の一貫と看做す。			
■学生に対する評価 発表の内容と出席で評価する。			

授業科目名： イギリス文学史研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 加藤 行夫
■授業の到達目標及びテーマ (1) 文学作品の英語を歴史的文脈のなかで正しく読めるようにすること (2) 緻密な解釈力と分析力を養うこと			
■授業の概要 初期近代演劇に関する、上演実態の検証を行う。劇場事情および舞台構造を考察しつつ、上演台本との関係を考察する。			
■授業計画 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する			
■テキスト シェイクスピア			
■参考書			
■学生に対する評価 授業内の読解および発表能力			

授業科目名： イギリス文学史演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 加藤 行夫
■授業の到達目標及びテーマ (1) 文学作品の英語を歴史的文脈のなかで正しく読めるようにすること (2) 緻密な解釈力と分析力を養うこと			
■授業の概要 書誌学的諸問題を考慮しながら初期近代劇作家の戯曲を講読し、さまざまな解釈について議論する。			
■授業計画 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：テキストを演習形式で講読する			
■テキスト シェイクスピア			
■参考書			
■学生に対する評価 授業内の読解および発表能力			

授業科目名： イギリス文学研究Ⅱ(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 佐野隆弥
■授業の到達目標及びテーマ (1) 受講生に初期近代英語について習熟させる。 (2) 初期近代イングランド文化に流入した西洋古典の受容について考察させる。			
■授業の概要 Christopher Marloweの <i>Hero and Leander</i> を読む。初期近代イングランドにおける神話の受容について考察する。			
■授業計画 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回：The First Sestiadを演習形式で講読する 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：The Second Sestiadを演習形式で講読する 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回： <i>Hero and Leander</i> に関する先行研究を講読する			
■テキスト M. R. Ridley, ed., <i>Marlowe's Plays and Poems</i> (Dent, 1955)			
■参考書 その都度指示。			
■学生に対する評価 (1) 出席および平常点（準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等） (2) 夏期レポートおよび冬期レポート			

授業科目名： イギリス文学演習Ⅱ(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 佐野隆弥
■授業の到達目標及びテーマ (1) 受講生に初期近代英語について習熟させる。 (2) 先行する文化テキストに後続の詩人がどのように反応するのか——「影響の不安」について考察する。			
■授業の概要 George Chapmanの <i>Hero and Leander</i> を読む。2人の詩人の資質の相違と時代性について考察する。			
■授業計画 第1学期 第1回：ガイダンス 第2回～第10回：The Third Sestiadを演習形式で講読する 第2学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：The Fourth Sestiadを演習形式で講読する 第3学期 第1回：イントロダクション 第2回～第10回：The Fifth and Sixth Sestiadsを演習形式で講読する。およびまとめ。			
■テキスト M. R. Ridley, ed., <i>Marlowe's Plays and Poems</i> (Dent, 1955)			
■参考書 その都度指示。			
■学生に対する評価 (1) 出席および平常点（準備の度合い、授業中の発表成績、授業時の活動状況、授業態度等） (2) 夏期レポートおよび冬期レポート			

授業科目名： イギリス文学特殊研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ロンベール、ラファエル
■授業の到達目標及びテーマ This course will confront students with the terrors and brutalities of bondage while also expanding the topic toward issues of American history and racial identity.			
■授業の概要 Slavery in the United States Through The Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave, Written by Himself (1845) and Octavia Butler's novel Kindred (1979), this course will explore the social, cultural, and economic structure of slavery in the antebellum South.			
■授業計画 第1回：Introduction 第2～30回：Lecture and Seminar			
■テキスト The Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave, Written by Himself (1845) http://sunsite3.berkeley.edu/Literature/Douglass/Autobiography/A1.html Octavia Butler's Kindred (Beacon Press, 2004) Available on Amazon.jp # ISBN-10: 0807083690 # ISBN-13: 978-0807083697			
■参考書 Deborah E. McDowell, Arnold Rampersad, eds. Slavery and the Literary Imagination (John Hopkins University, 1989), Peter Kolchin's American Slavery 1619-1877 (Hill and Wang 2003)			
■学生に対する評価 Attendance is compulsory and will count toward your final grade. In-class participation is essential. We will read an average of 20 to 30 pages a week. A short response (at least 300 words in length) is due on a regular basis. One oral presentation and one essay per trimester. In-class participation: 20% Oral presentation: 20%			

授業科目名： アメリカ文学史研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 宮本 陽一郎
■授業の到達目標及びテーマ 1. ポストモダニズムについての現在の理論的研究の展開を理解する。 2. 上記を踏まえた水準で、1960年代アメリカ小説を分析し、発表可能なレベルの論文を執筆する。			
■授業の概要 <ポストモダンの文学と文化> ジョン・バース、カート・ヴォネガット、トマス・ピンチョンの作品を中心テキストとして、1960年代アメリカ小説を論じる。			
■授業計画 第1学期 対抗文化とメタフィクション 第1回 序論、第2回 Counterculture and the Politics of Interpretation、第3回、Susan Sontag, "Against Interpretation." 第4回 John Barth, "Literature of Exhaustion." 第5回 Donald Barthelme, "The Balloon." 第6-8回 John Barth, "Dunyazadiad," in Chimera. 第9-10回 Ronald Sukenick, The Death of the Novel and Other Stories. 第2学期 ポストモダンの美学 第1回 序論、第2回 Ihab Hassan, "Toward a Concept of Postmodernism." 第3回 Linda Hutcheon, The Aesthetics of Postmodernism第4-5回 ポストモダニズムの建築論、第6-10回 Kurt Vonnegut, Breakfast of Champions. 1 第3学期 ポストモダン・ヒストリオグラフィー 第1回 序論、第2回 ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、第3-6回 Thomas Pynchon, The Crying of Lot 49. 第7回 Fredric Jameson, "Postmodernism and Consumer Society." 第8回 Jean-Francois Lyotard, The Postmodern Condition. 第9回 Jugen Habermas, "Modernity -- An Incomplete Project." 第10回 Larry McCaffery, Storming the Reality Studio.			
■テキスト 教室にて指示する。			
■参考書 教室にてビブリオグラフィーを配布する。			
■学生に対する評価 100パーセントの出席を成績評価の前提とし、学期末論文により評価を行う。			

授業科目名： アメリカ文学史演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 宮本 陽一郎
■授業の到達目標及びテーマ 1. 1980年代以降のアメリカの大学におけるペダゴジーをめぐる理論の展開と意義を理解する 2. 将来大学において文学・文化の教育に携わる際に必要な知識と技術を涵養する。 3. 学生にとって魅力的な教案・シラバスを作成する技術を養成する。			
■授業の概要 <文学とペダゴジー> この授業は、将来大学における文学の教育に携わろうとする大学院生のための PFF(Preparing Future Faculty)プログラムとして開設され、アメリカ文学専攻以外の履修者をとくに歓迎します。ペダゴジー（教育方法、教育言説）は、単なる技術論を越えて、1980年代以降の文学理論研究の先端的主題のひとつとして認知されるようになりました。こうした展開を踏まえながら、文学の研究と教育にとって、教室という空間がどれほど豊かな可能性に開かれたものであるかを、この授業では学びます。正規の授業時間以外に、教育技術に関わる講習と実習を行います。			
■授業計画 第1学期 文学教育の誕生 第1回序論、第2回 Eagleton, Literary Theory. Ch. 1 第3回Brooks & Warren, Understanding Poetry. 第4回 Brooks & Warren, Understanding Fiction. 第5回 学生による教案の討議 第6回Lodge, Working with Structuralism 第7回Scholes, Structuralism and Interpretation 第8-9回 Scholes, Textual Power 第10回学生による教案の討議 第2学期 ペダゴジーとポスト構造主義 第1回 序論 第2-4回 Fetterly, Resisting Reader 第5回 学生による教案の討議 第6回 Stanley Fish, Is There a Text in This Class? 第7回 Paul de Man, "Resistance to Theory" 第8回 Michael Ryan, "Deconstruction and Radical Teaching" 第9回 Barbara Foley, "Subversion and Opposition in the Academy" 第10回 学生による教案の討議 第3学期 文学教育の現在 第1回 序論 第2回 Bloom, The Closing of the American Mind 第3回 D'Souza, Illiberal Education 第4回 Graff, Beyond Cultural Wars 第5回 Berube, The Empliment of English 第6回 Ohman, Politics of Letters 第7回 Graff, Clueless in Academia 第8-10回 学生による発表と討議			
■テキスト 教室にて指示する			
■参考書 初回授業の際にビブリオグラフィーを配布する			
■学生に対する評価 100パーセントの出席を成績評価の前提とし、教案・シラバス作成などの課題に対する取り組み、および学生指導の実習に基づき評価を行う。			

授業科目名： アメリカ文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／ <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 鷲津 浩子
■授業の到達目標及びテーマ この授業は「アメリカ文学演習」と表裏一体の関係にあり、共通する目標はアメリカにおいて／について書かれたテキストを、知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）を意識して読めるようにすることである。「演習」が具体的テキスト講読に力点を置くのに対して、「研究」ではテキスト分析に必要な知識史や〈知識の枠組み〉といった概念の全体像を把握できるようにする。また、隔年で発行している『アメリカ文学評論』のテーマにあわせてテーマを設定する。ちなみに、今年度は〈デザイン〉となっている。			
■授業の概要 〈知識史の中のデザイン〉〈デザインの知識史〉南北戦争前のアメリカ散文を仲立ちにして、〈デザイン〉という概念を知識史を意識して論じる。 〈デザイン〉は、芸術や製造業において重要なだけでなく、人生観や宇宙観といった概念図を示すこともあれば、当節問題となっている〈インテリジェント・デザイン〉に見られるような宗教の問題をも包含する。そこで、〈デザイン〉ということばがもつ概念とその成り立ちを考えることによって、個々の院生がとりくんでいる具体的なテキスト分析に厚みと幅を持たせる。			
■授業計画 水曜2・3時限 第1学期 「知識史」についてのディスカッションを行う。序論／中世／ルネサンス／「事実」認定（17世紀）／「理性」（18世紀）／「科学技術」（19世紀）／医学／「進化論」／物の理／コズモロジー 第2学期 知識を生成する場所についてのディスカッションを行う。図書館／修道院／大学／知の共和国／学問／実験室／博物館／ライシウム／サロン／公立学校／ネットワーク 第3学期 1830年代に誕生したアメリカの「知識の枠組み」 学生各自の興味に従って、「アメリカ式産業／経済／文化構造」の成立・発展・変容を、「知識」ことに「デザイン」の考え方を中心に、リサーチし発表しディスカッションを行う。予定されている話題は、「神のデザイン」「自然のデザイン」「インテリジェント・デザイン（の問題点）」「工業デザイン」「万博のデザイン」「音のデザイン」などである。			
■参考書 鷲津浩子『時の娘たち』（南雲堂、2005年）			
■学生に対する評価 (1) 授業参加（単なる出席とは異なる） (2) 専門性と学際性の融合と均衡 (3) ジャーナル掲載可能な論文の執筆			

授業科目名： アメリカ文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 鷲津 浩子
■授業の到達目標及びテーマ この授業は「アメリカ文学研究」と表裏一体の関係にあり、共通する目標はアメリカにおいて／について書かれたテキストを、知識史（通時）と〈知識の枠組み〉（共時）を意識して読めるようにすることである。「演習」が具体的テキスト講読に力点を置くのに対して、「研究」ではテキスト分析に必要な知識史や〈知識の枠組み〉といった概念の全体像を把握できるようにする。また、隔年で発行している『アメリカ文学評論』のテーマにあわせてテーマを設定する。ちなみに、今年度は〈デザイン〉となっている。			
■授業の概要 〈デザインの知識史〉南北戦争前のアメリカ散文を仲立ちにして、〈デザイン〉という概念を〈知識の枠組み〉を意識して論じる。 〈デザイン〉は、芸術や製造業において重要なだけでなく、人生観や宇宙観といった概念図を示すこともあれば、当節問題となっている〈インテリジェント・デザイン〉に見られるような宗教の問題をも包含する。そこで、〈デザイン〉ということばがもつ概念とその成り立ちを考えることによって、個々の院生がとりくんでいる具体的なテキスト分析に厚みと幅を持たせる。			
■水曜 2・3 時限 受講生の進捗状況によって、授業速度を調整する。 第1学期 James Burke, <i>The Day the Universe Changed</i> を用いて、「知識史」の知識を得る。"The Way We Are," "In the Light of the Above," "Point of View," "Matter of Fact," "Infinitely Reasonable," "Credit Where It's Due," "What the Doctor Ordered," "Fit to Rule," "Making Waves," "Worlds Without End" 第2学期 Ian F. McNeely with Lisa Wolverson, <i>Reinventing Knowledge: From Alexandria to the Internet</i> をもちいて、知識が生成する場所について論じる。"The Library," "The Monastery," "The University," "The Republic of Letters," "The Disciplines," "The Laboratory" また、博物館・ライシニアム・サロン・公立学校などについては、ほかの文献を使う。 第3学期 1830年代に誕生したアメリカの「知識の枠組み」 学生各自の興味に従って、「アメリカ式産業／経済／文化構造」の成立・発展・変容を、「知識」ことに「デザイン」の考え方を中心に、リサーチし発表しディスカッションを行う。予定されている話題は、「神のデザイン」「自然のデザイン」「インテリジェント・デザイン（の問題点）」「工業デザイン」「万博のデザイン」「音のデザイン」などである。			
■テキスト 知識史・〈知識の枠組み〉関連の文献（コピー、Reinventing Knowledgeは各自入手すること）			
■参考書 鷲津浩子『時の娘たち』（南雲堂、2005年）			
■学生に対する評価 (1) 授業参加（単なる出席とは異なる） (2) 専門性と学際性の融合と均衡 (3) ジャーナル掲載可能な論文の執筆			

授業科目名： アメリカ文学特殊研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ロンベール、ラファエル
■授業の到達目標及びテーマ This course is designed to strengthen graduate students' knowledge and understanding of literary and cultural theories. It emphasizes close reading and in-class discussion. Furthermore, students will be given the opportunity to flex their critical thinking muscles through the weekly analysis of flash fiction.			
■授業の概要 This course will survey the major contemporary literary theories that emerged in the twentieth century and came to dominate cultural and literary criticism over the past several decades. Through classic texts from such fields as Marxism, deconstruction, postcolonial studies, and feminist theory, this course endeavors to provide graduate students with the critical tools they need to enhance their academic research.			
■授業計画 Term 1 week1 Intro week2/3 Formalisms week4/5 Structuralism week6/7/8 Rhetoric, Phenomenology, Reader Response week9/10/11 Post-structuralism, Deconstruction, Post-modernism Term2 week1/2 Post-structuralism, Deconstruction, Post-modernism week3/4/5 Historicism week6/7/8 Political Criticism: From Marxism to Cultural Materialism week9/10/11 Feminism Term3 week1/2 Gender Studies week3/4/5 Ethnic Literary Criticism, Cultural Studies, race Theory week6/7/8 Colonialism, Post-colonialism, and Transnational Studies weeek9/10/11 Cultural Studies			
■テキスト <i>Literary Theory: An Anthology</i> (Blackwell Anthologies) Julie Rivkin, Michael Ryan, eds. Wiley-Blackwell, 2 edition, 2004 ISBN-10: 1405106964 / ISBN-13: 978-1405106962			
■参考書 Peter, Barry. <i>Beginning Theory: An Introduction to Literary and Cultural Theory</i> . Second Edition. Manchester: Manchester University Press, 2002			
■学生に対する評価 Attendance is compulsory and will count toward your final grade In-class participation is essential We will read an average of 30 to 40 pages a week. A short response (at least 300 words in length) is due on a regular basis One oral presentation and one essay per trimester and per student In-class participation: 20% Oral presentation: 20% Responses and Term paper: 40% Attendance and punctuality: 20%			

授業科目名： フランス文学史研究（3）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 増尾 弘美
■授業の到達目標及びテーマ <p> 仏語の研究論文を正確に読み取り、論述の展開の仕方、仏語での表現方法を学ぶ。 フランス19世紀から20世紀への流れにおいて、小説及び文学批評がどのような変遷をたどったかを考察する。 </p>			
■授業の概要 <p> 王政復古期からベル・エポックの時代までの小説について考察する。 19世紀の小説家バルザック、フローベール、そして文学批評家サント＝ブーヴ、さらに彼らのテキストを自家薬籠中の物として自在に引用、加工、模倣することによって20世紀文学を拓いたプルーストについて考察していく。また彼がハーディ、スタンダール、ドストエフスキーやトルストイに比肩しうる作家として評価していたバルベイ・ドールヴィイにも注目する。 </p>			
■授業計画 <p> プルーストについて引用・模倣の面では主にAnnick Bouillaguet、サント＝ブーヴ関連では主にBernard Brun、バルベイ・ドールヴィイ関連ではBrian G.Rogers の論文を読む予定。必要に応じてバルザック、フローベール、サント＝ブーヴ、バルベイ・ドールヴィイの原著も見る。プルーストの『失われた時を求めて』に何気なく隠された様々な仕掛けを読み解いていきたい。 </p>			
■テキスト Annick Bouillaguet, <i>Proust lecteur de Balzac et de Flaubert</i> , Champion, 2000 Brian G. Rogers, <i>Proust et Barbey d'Aureilly, Le dessous des cartes</i> , Champion, 2000			
■参考書 <i>Bulletin d'Informations proustiennes</i> <i>Bulletin Marcel Proust</i> <i>Dictionnaire Marcel Proust</i> , Champion, 2004			
■学生に対する評価 <p> 授業中の発表を主とした平常点で評価する。 </p>			

授業科目名： フランス文学研究Ⅰ（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 ／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 小川 美登里
■授業の到達目標及びテーマ フランス現代文学を取りあげ、テキストの綿密な読解を通してエクリチュールの特徴と可能性、その限界について考える。身体とテクスチュール、記憶と形象、声や沈黙といったテーマにも目を向ける。			
■授業の概要 フランス現代文学を中心にテキストを読解・分析する。			
■授業計画 20世紀後半以降の文学作品をとりあげ、ヌーヴォー・ロマン以後における文学創造の試みと、「書くこと」の意義を問う。Jean Echenoz, Hervé Guibertなどの作品を扱う予定であるが、具体的な内容に関しては受講者と相談して決定する。			
■テキスト 適宜指示する			
■参考書			
■学生に対する評価 出席状況や授業態度、レポートや課題などを総合的に評価する。「フランス文学特殊研究（４）」もあわせて受講すること。			

授業科目名： フランス文学研究Ⅱ（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 ／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 増尾 弘美
■授業の到達目標及びテーマ 受講者各自が研究テーマの焦点を絞り、関連する参考文献を探し出して読み、論文執筆や学会での口頭発表へと発展させることができるようにする。			
■授業の概要 現代フランス文学作品を講読し、それに関する批評を検討しつつ考察する。内容は受講者と相談して決める。論文の添削、口頭発表のリハーサルも行う。			
■授業計画 1学期：今年度の目標設定を行い、毎時間の発表・討論により、各自の研究の焦点を絞っていく。 2学期：学内口頭発表のリハーサル。論集論文の練り直し。学位論文提出を控えている場合は詰めを行う。 3学期：学会発表に向けて、内容の練り上げとリハーサル。 以上は大まかな計画であり、詳細は受講者のスケジュールに従って決める。			
■テキスト 受講者と相談して決める。			
■参考書 授業中に指示する。			
■学生に対する評価 授業中の発表を主とした平常点で評価する。			

授業科目名： フランス文学特殊研究 (4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 小川 美登里
■授業の到達目標及びテーマ <p>文学創造と批評の関係を考える。詩・小説・エッセイなどを執筆するかたわら批評活動を行なっているフランスの作家を取りあげ、批評と創造の間に結ばれる有機的な関係を問う。</p>			
■授業の概要 <p>フランス文学研究に不可欠な言語運用能力、批評能力、読解・分析能力を養うと同時に、時代的・文化的な文脈のなかで文学をどう捉えるかなどといった問題にも触れる。</p>			
■授業計画 <p>導入として、Georges Poulet, <i>La Conscience critique</i> (José Corti, 1971)を扱い、「創造すること」と「批評すること」の関係についての問題提起をおこなう。さらに、いくつかの具体例（ボードレー、ブルトン、バルト、ジャコテなど）をみたのち、批評と創造を最も先鋭的な形で結び付けている例として、パスカル・キニャールの<i>La Rhétorique spéculative</i> (Calmann-Lévy, 1994)を読解する予定である。</p>			
■テキスト 適宜指示する			
■参考書			
■学生に対する評価 <p>出席状況や授業態度、レポートや課題などを総合的に評価する。「フランス文学研究I(4)」もあわせて受講すること。</p>			

授業科目名： ドイツ文学研究 I (4)	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 相澤 啓一
■授業の到達目標及びテーマ 狭義の文学のみならず、広く文化的観点から、19世紀から20世紀にかけてのさまざまな芸術分野の現象を分析できる能力を身につける。同時に、正確なドイツ語読解力を身につける。			
■授業の概要 20世紀ドイツにおける文学と音楽や映画など周辺芸術諸領域との関連を考察する。			
■授業計画 参加院生の希望も考慮しつつ、短めのドイツ語によるテキストを輪読する。定期的に、関連する発表を組み込む。			
■テキスト ドイツ語によるテキストを輪読する。			
■参考書 別途指示			
■学生に対する評価 積極的参加と課題の達成度により評価する。			

授業科目名： ドイツ文学研究Ⅱ（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ヘーゼルハウス・ヘラト
■授業の到達目標及びテーマ Der Kurs vermittelt einen Ueberblick ueber die Entwicklungen in der Kunst und Literatur in den deutschsprachigen Laendern bis zur Kunstpolitik der Nazi-Diktatur. Ziel des Unterrichtes ist es, die kuenstlerischen Tendenzen und Innovationen der europaeischen Kunst vor dem Faschismus darzustellen und die Eigenschaften faschistischer Kunst und Kunstpolitik vor diesem Hintergrund kritisch zu beleuchten.			
■授業の概要 Einfuehrend werden verschiedene einschlaegige theoretische Kunstkonzeptionen der Weltgeschichte vorgestellt und eroertert, um eine Basis fuer die Kunstdiskussionen des 19. und 20. Jahrhunderts zu legen (Platon, Aristoteles, Hegel etc.). Nach einem kurzen Ueberblick ueber die Kunsttendenzen des 19. Jahrhunderts werden die neuen experimentellen Kunstkonzeptionen des fruehen 20. Jahrhunderts vorgestellt, beginnend mit der Kunst der Jahrhundertwende, dem Jugendstil und darauf folgend dem Expressionismus, Dadaismus usw. Zuletzt wird der Konflikt zwischen den faschistischen Kunstauffassungen (besonders den deutschen, aber auch spanischen und italienischen) und den Vertretern experimenteller und avantgardistischer Kunst aufgearbeitet.			
■授業計画 1. Trimester: Einfuehrung in die Kunsttheorien der europaeischen Geschichte (u.a.: Platon, Aristoteles, Kant, Hegel, Rosenkranz, Adorno) 2. Trimester: Ueberblick ueber die Kunsttendenzen des 19. Jahrhunderts Betrachtung der avantgardistischen Kunst des fruehen 20. Jahrhunderts (Expressionismus, Dadismus usw.) 3. Trimester: Entwicklung der Kunst und Kunsttheorie vor dem Hintergrund des aufkommenden Faschismus			
■テキスト Primaer- und Sekundaerliteratur wird im Kurs vorgestellt			
■参考書			
■学生に対する評価 Aktive Mitarbeit, Vorbereitung der Lektuere, Referate und Hausarbeit.			

授業科目名： ドイツ文学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 相澤 啓一
■授業の到達目標及びテーマ ドイツにおける多くの文学作品はさまざまなベクトルでナショナリズムとの関連を強く持っている。それらの関連を読み解くことで、文学作品の特質や物語の特徴を分析することが可能となる場合も多い。そうした視点から芸術作品を読み取る能力を身につける。同時に、正確なドイツ語読解力を身につける。			
■授業の概要 19世紀以降のドイツ・ナショナリズムをめぐる記憶と物語について考察する。			
■授業計画 院生たちの希望もききつつ、多様な作品、また評論や論文などをテキストとして選択し、読んでゆく。あわせて適宜、テーマに関するレポートを発表する。			
■テキスト ドイツ語によるテキスト。詳細は授業で決定する。			
■参考書 別途指示			
■学生に対する評価 積極的参加と課題の達成度により評価する。			

授業科目名： ドイツ文学特講（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： ヘーゼルハウス・ヘラト
■授業の到達目標及びテーマ Erlernung des Handwerkzeuges fuer die Filmanalyse und Filmbeschreibung. Ueberblick ueber aesthetische Theorien zum Medium Film. Diskussion von Entwicklungen und Tendenzen im Deutschen Film. Beispielhafte Filmanalysen			
■授業の概要 Nach einer allgemeinen Einfuehrung in die Filmanalyse, werden verschiedene aesthetische Theorien und Verfahrensweisen im Medium Film vorgestellt und diskutiert. Besonderes Gewicht wird auf die Unterscheidung von visuellen und narrative Kriterien bei der Filmanalyse gelegt. Dabei werden Entwicklungen und Tendenzen im Deutschen Film diskutiert.			
■授業計画 1. Trimester: Erarbeitung von Techniken der Filmanalyse und Filmbeschreibung 2. Trimester: Visuelle Aesthetik im Film: Kategorien, Konzepte, Realisationen 3. Trimester: Narrative Aesthetik im Film: Kategorien, Konzepte, Realisationen			
■テキスト Film- und Textmaterial wird im Unterricht vorgestellt.			
■参考書			
■学生に対する評価 Aktive Teilnahme, Vorbereitung der Lektuere, Referate und Filmanalysen.			

授業科目名： ドイツ文化研究 I (4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 相澤 啓一 ヘーゼルハウス・ヘラト
■授業の到達目標及びテーマ 将来のドイツ語関連教員生活を念頭に、ドイツ語運用能力を高め、あわせてドイツ語教育の現場を体験して教授法について理解を深める。			
■授業の概要 ドイツ語教授法を扱う。あわせてドイツ語の総合力を身につけるトレーニングを行う。			
■授業計画 一部集中講義として、ドイツ語によるプレゼンテーションとディスカッションの機会を持ってもらう。ドイツ語での発表に向けて、さまざまな準備段階における指導も行う。その性格上、活動は不定期な個人レッスンの形となる場合もある。ドイツ語教育については、教案作りから授業、そして自己分析までの一連の語学教育の作業を教員の指導の下に体験してもらう。			
■テキスト 別途指示			
■参考書 吉島茂・境一三 『ドイツ語教授法』(三修社)			
■学生に対する評価 積極的参加と課題の達成度により評価する。			

(I 教職課程の変更届)

授業科目名： 中国文学史研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 松本 肇
■授業の到達目標及びテーマ 唯美主義文学の解明が、到達目標である。テーマは、滅びの美学である。			
■授業の概要 晩唐の詩を読む。雨に散る花、沈む夕陽、燃え尽きた灰など、消滅するもののイメージの分析を通して、晩唐における唯美主義の特色を探る。併せて、唐詩の鑑賞方法についても学ぶ。			
■授業計画 一、二学期 韓致堯詩を読む。 三学期 李賀詩を読む。			
■テキスト 『李賀詩注』（世界書局）			
■参考書 鈴木虎雄注釈『李長吉歌詩集』上下（岩波文庫）			
■学生に対する評価 資料作成方法、発表方法、独創性に基づいて評価する。			

(I 教職課程の変更届)

授業科目名： 中国文学史演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 松本 肇
■授業の到達目標及びテーマ 中国の詩学認識の解明が、到達目標である。テーマは、人工と自然である。			
■授業の概要 『詩人玉屑』『漁隱叢話』『歴代詩話』などから、中国の詩学認識に関する文章を取り上げて読む。とくに、典故、含蓄、余韻、剽窃、神似についての議論を中心に検討する。			
■授業計画 一学期 宋・葉夢得『石林詩話』の選読。 二学期 宋・張戒『歳寒堂詩話』、葛立方『韻語陽秋』の選読。 三学期 宋・胡仔『苕溪漁隱叢話』の選読。			
■テキスト 『歴代詩話』（中華書局）『歴代詩話続編』（中華書局）			
■参考書 『中国文学理論史』（北京出版社）			
■学生に対する評価 資料作成方法、発表方法、独創性に基づいて評価する。			

(I 教職課程の変更届)

授業科目名： 中国文学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 小松 建男
■授業の到達目標及びテーマ 中間論文、博士論文としてふさわしい水準の論文作成のための技能を身につけることを目的とする。			
■授業の概要 博士論文作成のための。指導を行う。授業に参加する院生は、自らが博士論文で取り上げようとしている作品・人物などについて報告を行うばかりでなく、他の参加者の発表に対しても、有意義な発言をすることが求められる。			
■授業計画 一学期 各自の論文作成（中間論文・博士論文など）にむけての構想発表と参加者による討論。 二学期 作成中の論文についての中間報告と参加者による助言。 三学期 提出された論文に基づいての報告と参加者により質疑。			
■テキスト 発表形式なので、担当者が必要に応じて用意する。			
■参考書			
■学生に対する評価 本授業は、参加者が論文作成を支援することを目的としている。従って文献操作、読解、問題設定の妥当性が評価の対象となる。			

(I 教職課程の変更届)

授業科目名： 中国文学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 稀代麻也子
■授業の到達目標及びテーマ 丁寧な基礎作業を経たうえで、作品の解釈を文章としてまとめる。 授業のテーマは、「『六朝的作品』の役割解明に向けて」。			
■授業の概要 『文選集注』巻六十二を読む。 作品の解釈をめぐる考察に主眼をおき、諸本と比較して集注本の特質を見極める。			
■授業計画 第1学期： 「潘黄門（述哀）岳」 「陸平原（羈官）機」 「左記室（詠史）思」 以上について、可能な限り底本に忠実な訳注の作成、問題点の洗い出し。 第2学期： 諸本との比較、訳注の訂正と補充、問題点の確認。 第3学期： 作品解釈をめぐる考察および文章化。			
■テキスト 『唐鈔文選集注彙存』（上海古籍出版社）			
■参考書 岡村繁『文選の研究』			
■学生に対する評価 主として以下の点に重点をおいて評価する。 1 学期：発表担当時に作成する資料 2 学期：問題提起の意欲 3 学期：討論における発言内容および提出された文章。			

(I 教職課程の変更届)

授業科目名： 中国文学批評演習(3)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 小松 建男
■授業の到達目標及びテーマ 『剪灯新話』を取り上げ、明代の版本では小説本文がどのように変化したのか、およびこの時代に文言文による表現はどこまで可能性を広げたのかを解明する。			
■授業の概要 『剪灯新話』を読む。作者瞿佑が、どのようにして、六朝志怪小説とは異なる怪を語る作品を作り上げているのかということについて、その文章表現上の特色から検討する。			
■授業計画 第1回 『剪灯新話』について 第2回～第15回 「牡丹灯記」 第16回～第25回 「金鳳釵記」 第26回～第30回 「申陽洞記」			
■テキスト 『剪灯新話句解』（『古本小説叢刊』第33輯-4冊 中華書局）			
■参考図書 喬光輝『明代剪灯系列小説研究』（中国社会科学出版社 2006）			
■学生に対する評価 『剪灯新話』が使用している典拠のある語彙、口語的な語彙をきちんと見分け的確な理合ができるかが評価の対象となる。			

授業科目名： 一般言語学研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 ／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 池田 潤
■授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・自らの研究内容を一般言語学的視座の中に位置づけること。 ・問題を発見し、解決する能力を高めること。 ・自らの研究内容について、専門外の聞き手にも分かりやすく発表し、討論する能力を高めること。 ・ジャンル（学位論文、学術論文、一般書、その他）に最適化された文章を書く能力を高めること。 			
■授業の概要 <p>一般言語学に関する諸問題について、発表形式で探求する。具体的には、課程博士論文、中間評価論文を執筆中の学生、学会誌等に投稿予定の学生、学会発表を予定している学生が担当教員と多様な専門分野の学生の前で自分の研究テーマについて発表をおこない、討論をおこなう。討論能力を高めるために、一部の発表でミラーリングの手法を採り入れる。</p>			
■授業計画 <p>下記のいずれかをひとつのユニットとして、1学期に3ユニット程度の発表を実施する。</p> <p>【通常の発表】</p> <p>1回目：口頭発表（30分）、指定討論（30分）、総括（15分） 2回目以降：自由討論（60分）、その日の討論の総括（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定討論者は発表者から予め配布資料を受け取り、論点を用意すること。 ・自由討論は必要に応じて複数回繰り返す。 <p>【ミラーリングによる発表】</p> <p>1回目：ある学生が書いた文章について別の学生が口頭発表（30分）、第3の学生による指定討論（30分）、総括（15分） 2回目以降：自由討論（60分）、その日の討論の総括（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定討論者は発表者から予め配布資料を受け取り、論点を用意すること。 ・自由討論は必要に応じて複数回繰り返す。 			
■テキスト <p>発表者がテーマに応じて、その都度指定する。</p>			
■参考書 <p>発表者がテーマに応じて、その都度指定する。</p>			
■学生に対する評価 <p>発表内容（30%） 発表技術（10%） 指定討論（20%） 自由討論（10%） レポート（30%）</p>			

授業科目名： 一般言語学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目 ／ 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 臼山 利信
■授業の到達目標及びテーマ 言語政策を巡る諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。			
■授業の概要 ソ連時代及びソ連崩壊後の中央アジア諸国におけるロシア語と基幹民族語の地位，機能，相互作用，言語教育などの質的変化について， 国家言語政策の観点から検討する。			
■授業計画 1 旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題， 2 旧ソ連・ロシアの言語状況， 3 ポーランド及びブルガリアにおける社会言語学的調査， 4 中央アジアにおける社会言語学的調査， 5 オーストラリアにおけるロシア系移民の言語と文化の保持を巡る諸問題			
■テキスト 授業の際に教材として文献の複写などを配布する。			
■参考書 適宜指示する。			
■学生に対する評価 平常点とレポートにより評価する。			

授業科目名： 文献言語学研究（4）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 池田 潤
■授業の到達目標及びテーマ 【1学期】文字の認知について、脳科学の観点から探求すること。 【2学期】アマルナ文書をコーパスとした言語地図を作成し、言語地理学的な分析をおこなうこと。 【3学期】文字言語と音声言語の違いに対する理解を深めること。			
■授業の概要 古代オリエントの文献（楔形文字資料、ヘブライ語聖書など）を例として、文献に立脚する言語研究の諸問題を論じる。			
■授業計画 【1学期】実験文字学：文字類型の実証的研究 1～2週：概説 3～7週：実験とデータ解析（人社B613実験室） 8～10週：考察と討論 【2学期】GIS（地理情報システム）を用いたアマルナ書簡の言語地理学的研究 1～8週：アマルナ書簡マッピングシステムを用いて言語地図を生成し、言語地理学的分析を行う。 9～10週：言語地理学的分析を総括し、アマルナ時代のカナンの言語状況を可能な限り復元する。 【3学期】音法論序説：文字言語と音声言語の単位について 1～2週：概説 3～7週：実験とデータ解析（人社B613実験室） 8～10週：考察と討論			
■テキスト 最初の授業でリーディングリストを配布する。			
■参考書 池田潤「GISを用いたアマルナ書簡の言語地理学的研究(1)」『一般言語学論叢』第11号（2008） 池田潤「視覚刺激によるERPの基礎研究：文字類型の実証的研究(1)」『文藝言語研究』言語篇54（2008）			
■学生に対する評価 授業への積極的貢献（50%） 最終レポート（50%）			

授業科目名： 一般言語学特講 A（4）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 臼山 利信
■授業の到達目標及びテーマ <p>現代ロシア語を巡る言語学的諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。</p>			
■授業の概要 <p>現代ロシア語の諸相を言語形式と機能などの観点から洞察する作業を通して、ロシア語の言語的特徴を深く理解していく足掛かりをつくる。また同時に一般言語学的な問題意識を高める一つの契機とする。</p>			
■授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 ロシア語の歴史（概説） 2 現代ロシア語の名詞述語 3 現代ロシア語の形容詞述語 4 現代ロシア語の前置詞 B / H A + 前置格名詞の用法 5 現代ロシア語における英語の影響 			
■テキスト <p>授業の際に教材として文献の複写などを配布する。</p>			
■参考書 <p>適宜指示する。</p>			
■学生に対する評価 <p>平常点とレポートにより評価する。</p>			

授業科目名： 一般言語学特講B（4）	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 金 仁和
■授業の到達目標及びテーマ 現代韓国語の全般的な体系を通して、言語一般の諸様相を理解し、日本語との対照を試みる。			
■授業の概要 現代韓国語学を概論的に考察する。音韻、形態構造、語彙、文法、表現、統辞、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションなど、韓国語の個別性を幅広く考察して、一般言語としての韓国語を理解する。更に、その考察に基づいた日本語と対照を通して、言語の個別性と一般性についての理解を深める。			
■授業の計画 1学期：現代韓国語学概論Ⅰ 音韻・形態構造、語彙、表現について講義する。 2学期：現代韓国語概論Ⅱ 統辞、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションについて講義する。 3学期：日本語との対照 各自のテーマで考察・発表する。 構想→中間→最終発表を通して、レポートでまとめる。			
■テキスト 授業中に資料を配布する。			
■参考書 各学期の資料に別記する。			
■学生に対する評価 出席、発表、レポート			

授業科目名： 中国語文法研究（4）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 伊原 大策
■授業の到達目標及びテーマ 1, 中国近世白話資料の扱い方を学ぶ。 2, 中国近世白話の読解力を身につける。 3, 中国近世白話の研究動態を知る。			
■授業の概要 明清白話を資料に用い、歴史語法研究の手法を採用しながら、旧白話がどのような過程を経て現代漢語へと発展することに至ったかについて論じる。その際、南北間の文化と言語の差異に注目しつつ、実証的な手法で考察を加えることにより、両者間に存在する文化・言語の交流動態に目を向ける。			
■授業計画 第1回：中国近世白話に関する文献学入門1 第2回：中国近世白話に関する文献学入門2 第3回：中国近世白話に関する文献学入門3 第4回：中国近世白話の研究動態紹介1 第5回：中国近世白話の研究動態紹介2 第6回：中国近世白話の研究動態紹介3 第7回以降：中国近世白話の読解演習			
■テキスト 授業の際に指示する。			
■参考書 授業の際に指示する			
■学生に対する評価 授業の参加度とレポートによる。			

授業科目名： 中国語史料研究（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 大塚 秀明
■授業の到達目標及びテーマ 百年ほど前の清朝末期から民国初期にかけての中国語の文献史料を読解すること、またそこから現代中国語につながる語彙・語法の問題点を各自が設定し、論文作成までを目標とする。論文のテーマは中国語研究や日中対照研究や文化交流研究など、さまざまなテーマが考えられる。			
■授業の概要 現代中国語の形成を考えるうえで様々な問題が観察できる『京話日報』『新青年』『語絲』などの清末民初の史料を中心に、中国語の語法・語彙を通時的観点から、また日中語彙交流の視点から考究する。			
■授業計画 第1回：清末民初の言語と社会 第2回：清末民初の中国語の語法：『中国語歴史文法』太田辰夫 第3回：清末民初の中国語の語彙：『近代日中語彙交流史』沈国威 第4回～第7回：『京話日報』講読 第8回～第11回：『新青年』講読 第12回～第15回：『語絲』講読			
■テキスト 講読部分は複写コピーを利用（原本は中央図書館所蔵）			
■参考書 上記の2点以外は授業中に適宜指示します。			
■学生に対する評価 授業中の受け答えと研究発表（レジュメ作成も含めます）により評価します。			

授業科目名： 応用言語学基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：砂川有里子ほか 応用言語学領域教員全員
■授業の到達目標及びテーマ 応用言語学における基礎的な研究能力を身につける。			
■授業の概要 応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、講義や議論を通して深めていく。			
■授業計画			
■テキスト			
■参考書			
■学生に対する評価			

授業科目名： 応用言語学研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： カイザー・シュテファン
■授業の到達目標及びテーマ 文字に関する基本的な知識と、いくつかのタイプの文字とその分析方法を理解すること			
■授業の概要 文字学（Writing systems）に関する入門書を取りあげ、文字学の基本概念を押さえた上で、いくつかの文字体系の特徴とその類型論的位置づけを考える。特に、日本語の文字体系の性格・位置づけについて考えながら、先行研究で言われてきたことに対する検討を行う。			
■授業計画 第1学期： 文字学の基本的概念・シュメール・エジプト文字 第2学期： セム語の文字・ギリシャなどアルファベット 第3学期： 中国・日本の文字と文字の分類			
■テキスト Rogers (2005) Writing Systems. Blackwell.			
■参考書			
■学生に対する評価 授業への参加（発表など）にもとづく			

授業科目名： 応用言語学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 砂川 有里子
■授業の到達目標及びテーマ 談話分析の理論と実践に関する基礎的な知識の獲得。談話分析の研究の立案と実践。			
■授業の概要 （１）日本語母語話者の談話理解と談話産出をつかさどる文法的な要因を考察し、外国人に対する日本語教育を行う上での基礎理論について議論する。 （２）会話資料の収集と書き起こしをおこない、各自のテーマに基づいて分析する。			
■授業計画 第1回～第10回：テキスト『マルチジャンル談話論』他の講読 第11回～第20回：談話分析・会話分析にかかわる論文講読および談話資料の収集 第21回～第30回：談話資料の分析、及び研究発表			
■テキスト 泉子K. メイナード（2008）『マルチジャンル談話論』くろしお出版			
■参考書 授業で提示する。			
■学生に対する評価 授業への参加度50%、期末レポート50%			

授業科目名： 応用言語学論文演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 石田プリシラ
<p>■授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The principal aim of this course is to explore methods for the analysis of multi-word expressions across languages. A secondary aim is to develop students' ability to discuss linguistic research and give oral presentations in English.</p> <p>※Classes will be conducted in English and Japanese.</p>			
<p>■授業の概要</p> <p>This course will focus on the cross-linguistic analysis of idioms, collocations, and other multi-word expressions. We will discuss a variety of research articles in both English and Japanese and explore patterns in the function and meaning of multi-word expressions across languages. Students will also be required to design and carry out a joint research project.</p>			
<p>■授業計画</p> <p>第1～10回： Readings/discussion Readings will be assigned by the instructor at the beginning of Term 1.</p> <p>第11～20回： Oral presentations/discussion Students will do oral presentations based on course-related readings of their choice.</p> <p>第21～30回： Joint research project Students will work in pairs or small groups to design and carry out a project for the cross-linguistic analysis of multiword-expressions.</p>			
<p>■テキスト</p> <p>Granger, Sylviane and Fanny Meunier (eds). 2008. <i>Phraseology: An interdisciplinary perspective</i>. Amsterdam: John Benjamins.</p> <p>※We will focus on Section III 'Phraseology across languages and cultures'.</p>			
<p>■参考書</p> <p>宮地 裕 1999 「第三章 慣用句の表現」 『敬語・慣用句表現論—現代語の文法と表現の研究（二）—』 明治書院</p> <p>Dobrovolskij, Dmitrij and Elisabeth Piirainen. 2005. <i>Figurative Language: Cross-cultural and Cross-linguistic Perspectives</i>. Amsterdam: Elsevier.</p> <p>※Additional references will be given at the beginning of Term 1.</p>			

授業科目名： 応用言語学特講（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 宮本エジソン正
■授業の到達目標及びテーマ This is a class on experimental psycholinguistics. Students are required to design and run a hypothesis-testing experiment of their choice.			
■授業の概要 The classes will cover issues in hypothesis testing and experimental design: <ul style="list-style-type: none"> - how to formulate a testable hypothesis - what responses to measure and how to measure them - how to address confounding factors - how to further discriminate between alternative explanations for a given set of results 			
■授業計画 第1回～第5回：Basic background lectures and discussions 第6回～第10回：Students choose a topic and design an experiment 第11回～第15回：Prepare the experiment (stimuli, software, and so on) 第16回～第20回：Recruit participants and conduct the experiment 第21回～第30回：Analyze the results and consider possible follow-up experiments			
■テキスト There is no textbook, but students are strongly encouraged to read the following before classes start: Thomas S. Kuhn (1962) <i>The Structure of Scientific Revolutions</i> (科学革命の構造 トーマス・クーン. みすず書房)			
■参考書 Papers and book chapters will be assigned during class.			
■学生に対する評価 Students will be evaluated based on class presentations and on the progress of their projects.			

授業科目名： 日本語教育学研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 岡崎 敏雄
■授業の到達目標 日本語教育の理論と実践に関する基礎の獲得。 ■テーマ 持続可能性教育としての日本語教育。その基礎としての言語生態学。			
■授業の概要 日本語教育学及び言語生態学、持続可能性日本語教育に関して、多様な研究の成果を理論的・実践的に把握する。			
■授業計画 1 学期 1. 人間生態学としての言語生態学 2. グローバル化の下で変動する世界の下で持続可能な生き方を追求する言語教育としての持続可能性日本語教育 3. 生態学的思考 4. 人間生態学としての言語生態学に基づく持続可能性日本語教育 2 学期 1. 持続可能性日本語教育のカリキュラム 2. 持続可能性日本語教育の学習のデザイン 3. 持続可能性日本語教育の学習のデザインと教材、と教室活動—雇用篇— 3 学期 1. 持続可能性日本語教育の学習のデザインと教材、と教室活動—雇用と食糧のライフライン篇— 2. まとめ			
■テキスト その都度の配布資料			
■参考書 『人間生態学としての言語生態学に基づく持続可能性言語教育の理論と実際』科学研究費補助金報告書（課題番号19652045）、2009			
■学生に対する評価 授業への参加度及びレポート。			

授業科目名： 日本語教育学演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 一二三朋子
■授業の到達目標及びテーマ 接触場面での会話における言語面と心理面について統計的に分析すること。			
■授業の概要 接触場面に関する諸論文及び心理学的な手法を用いた日本語教育関係の論文を概観し、統計に関する極初歩的知識を身につけたうえで、データ収集や集計・分析方法について学ぶ。			
■授業計画 第1回～第10回 論文講読 第11回～第20回 統計の基礎的知識の習得 第21回～第30回 統計の実習			
■参考書 授業初日に紹介			
■学生に対する評価 授業の出席70%以上。授業への参加度・提出物などから総合的に評価。			

授業科目名： 日本語構造論研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 杉本 武
■授業の到達目標及びテーマ コーパスの適正な利用法について理解を深めるとともに、用例に基づく記述的研究の意義を見直し、その方法論を身につける。			
■授業の概要 コーパス言語学、コーパスを用いた文法研究を概観した上で、実際に現代日本語文法の分析を行いながら、コーパスの利用法、それに適した分析法について考える。今年度は、現代日本語の複合語の分析、記述を行う。			
■授業計画 第1回～第4回：コーパス言語学およびコーパスを用いた文法研究の概観 第5回～第10回：コーパスを用いた複合語の分析 第11回～第30回：受講者による研究発表			
■テキスト 特に無し。			
■参考書 ホームページ(http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sugi/syllabus/SSJL.html)に掲載。			
■学生に対する評価 授業への参加度と研究発表を総合して評価する。			

授業科目名： 日本語構造論演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 沼田 善子
■授業の到達目標及びテーマ <p>モダリティを中心とした現代日本語の文法研究（記述的研究）の現状と課題について理解を深め、これを踏まえた各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学ぶ。</p>			
■授業の概要 <p>現代日本語文法の諸現象について、受講者の発表とそれに対する討論を通し、考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。今年度はモダリティに関わる現象を中心に扱う。</p>			
■授業計画 <p>第 1 回～第 1 0 回：モダリティに関する最近の主要論文の講読 第 1 1 回～第 3 0 回：受講者の設定したテーマでの研究発表及び討論</p>			
■テキスト 特に無し。			
■参考書 授業時に指示する。			
■学生に対する評価 <p>授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。</p>			

授業科目名： 対照言語学研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：澤田 浩子
■授業の到達目標及びテーマ <p>ある対象の「属性」や「能力」「評価」を述べるとはどういうことか，そこに関わる心的過程について理解を深めるとともに，文法（特に構文・談話のレベル）の記述に必要な概念の検討を行う。言語学領域のみならず，隣接領域の文献からも広く知見を吸収・整理することを1，2学期の目標とする。3学期は各自，日本語及び他言語との対照から具体的な現象を挙げて考察し，概念の有効性を検証する。</p>			
■授業の概要 <p>語彙・文法だけでなく，コミュニケーションや音声言語にも着目し，言語対照研究の新たな領域の開拓を目標とする。今年度は「属性」「能力」「評価」というキーワードを中心に，構文・談話の両側面から考察を深める。</p>			
■授業計画 <p>第1～10回：言語学分野（特に「構文」）に関する文献の講読とディスカッション 第11～20回：コミュニケーション・心理学分野に関わる文献の講読とディスカッション 第21～30回：具体的言語現象の考察（受講者による研究発表）</p>			
■テキスト 特になし。			
■参考書 授業中に指示する。			
■学生に対する評価 <p>各受講者が担当する論文講読，ディスカッションへの貢献，研究発表などを総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 対照言語学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 竹沢幸一
■授業の到達目標及びテーマ 対照研究（生成比較統語論）の方法論および日本語に関わる対照研究の最近の動向に対する理解を深めるとともに、それに基づいて受講者各自の研究を進展させる。			
■授業の概要 日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。			
■授業計画 1学期： 日本語統語論および比較統語論の最近の研究動向に関する解説 2学期： 関連論文に基づく討論（特に意味と構造の関係についての問題を扱う） 3学期： 受講者による論文発表と討論			
■テキスト The Oxford Handbook of Japanese Linguistics (Miyagawa & Saito,OUP, 2008) 他			
■参考書 TBA			
■学生に対する評価 授業への参加度50%、ファイナルレポート50%			

授業科目名： 日本語音韻研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 那須昭夫
■授業の到達目標及びテーマ 主に理論的観点からプロソディ研究の新たな課題の発掘を目指す。			
■授業の概要 プロソディ現象とその理論的分析のあり方をめぐって、国内外の学位論文を批判的に講読しながら考察する。			
■授業計画 毎回論文の講読範囲を分担し、発表ならびに討議を行う。			
■テキスト とくに指定しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。			
■参考書 授業中に示す。			
■学生に対する評価 講読（発表）および期末課題の内容を以って評価する。			

授業科目名： 日本語文法研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 矢澤 真人
■授業の到達目標及びテーマ <p>日本語の文法現象について、十分な知識を得るとともに、その現象が実際にどのくらいの範囲や頻度で出現するものかを把握し、かつそれにふさわしい分析手法や理論を適用していく力を身につけることを目標とする。あわせて、内容や分量に応じた論文の構成や記述の仕方などについても習得する。</p>			
■授業の概要 <p>現代日本語の種々の文法現象について、コーパスを用いて具体的な事例を収集し、それを元に、生じる範囲や環境を把握した上で、理論的な解釈と照らし合わせて、検討を進めていく。基本的に、参加者の発表を中心に進めるが、博士論文や修士論文等を準備しているものは、優先的に発表の機会を与える。</p>			
■授業計画 <p>(1 学期) 第 1 回にオリエンテーションを行い、学期内に発表する担当者とテーマを割り振りする。発表者が空いた回には、教員が講義（文構成に関わる基本的な概念について）を行う。 (2 学期) 博士論文・修士論文提出者がいる場合には、その者の発表を中心に進める。発表者が空いた回には、教員が講義（修飾関係の分析について）を行う。 (3 学期) 引き続き、参加者の発表を中心に進める。発表者が空いた回には、教員が講義（日本語の語順について）を行う。</p>			
■テキスト 発表者の発表資料による			
■参考書 特になし。			
■学生に対する評価 <p>年 1 回以上の発表を義務とし、その発表と、討議への参加を元に評価する。</p>			

授業科目名： 日本語史研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 坪井 美樹
■授業の到達目標及びテーマ <p>日本語の歴史的研究を行うに必要な基礎知識として、文献資料の成立や内容に関する知識を増し、具体的に文献資料の取り扱い方に習熟し、さらに将来教育の場に立った時に日本語史の基礎的知識を教授できる能力を涵養することを目標とし、中世日本語資料の抄物資料について講義する。</p>			
■授業の概要 <p>日本語の歴史的研究における基本的問題として、文献資料とそこから得られる言語学的知見との関係について考える。具体的には、中世日本語資料としての抄物（ショウモノ）資料の中から、『三体詩抄』『人天眼目抄』の2種をとりあげ、その言語資料としての特質とそこに見られる中世日本語の姿について種々の角度から考察する。</p>			
■授業計画 <p>1 学期 本授業の基礎的知識として次のトピックについて講義する。 ①日本語史と文献資料 ②中世日本語の概観 ③中世日本語文献資料概観 ④抄物資料の性格 ⑤抄物の種類とその言語</p> <p>2 学期 抄物資料のうち『人天眼目抄』をとりあげ考察を加える。 ①日本における『人天眼目』の享受 ②『人天眼目抄』の諸本 ③『人天眼目抄』と東国方言 ④足利本と史料本の比較 ⑤抄物の言語の特質</p> <p>3 学期 抄物資料のうち『三体詩抄』をとりあげ考察を加える。 ①日本における『三体詩』の享受 ②種々の『三体詩抄』の性格 ③『三体詩抄』の言語 ④講義のまとめ</p>			
■テキスト 特に使用しない。			
■参考書 大塚光信『抄物きりしたん資料私注』 柳田征司『室町時代語資料としての抄物の研究』 柳田征司『室町時代語を通して見た日本語音韻史』 湯澤幸吉郎『室町時代言語の研究』			
■学生に対する評価 <p>学期末に試験を行う。試験の結果と授業への参加状態で総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 日本語史料研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 大倉浩
■授業の到達目標及びテーマ <p>文献資料を実際にひもとき、日本語史資料の扱いに慣れる。変体仮名に慣れ、また狂言という芸能について、ビデオや実際の舞台を観て知識を深める。その上で、他の狂言台本と読み比べることで、中世日本語から近世日本語への語彙や語法の変遷について、様々な問題を設定できる目を養う。</p>			
■授業の概要 <p>実際の資料をひもときながら、日本語史の問題、語彙・語法を中心に考える。1730年刊の版本狂言記（狂言記拾遺）を他の狂言台本と比較し、実際の舞台のビデオも使いながら出自や資料性について考える。</p>			
■授業計画 <p>第1回～第4回：狂言史および日本の芸能史 第5回～第6回：狂言台本解題 第7回：狂言記について 第8回～第28回 『狂言記拾遺』を講読、参加者による他台本との比較 第29回～第30回：狂言の展開、資料性についてのまとめ</p>			
■テキスト 享保十五年刊『狂言記拾遺』版本のコピーを配布			
■参考書 授業時に適宜説明する。			
■学生に対する評価 <p>まずは授業に参加し、資料を読み他台本との比較を経験することが第一。 その上で、各自の専門や研究上の興味に従って、自由に問題を設定できるような史料への柔軟なアプローチができたかどうかで評価する。</p>			

授業科目名： 現代日本語研究(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 橋本 修
■授業の到達目標及びテーマ 当該領域の先行研究を読み、自らの調査・分析を発表し討議することによって、当該領域で自ら問題設定を行い研究を進めていく能力を向上させる。			
■授業の概要 現代日本語の主として意味論・語用論的テーマについて、受講者の興味も勘案しつつトピックを選び検討する。方言・古典日本語等の比較も可能な限り行う。導入としてはダイクシス関連の先行研究を読む。			
■授業計画 1学期：オリエンテーション・導入・論文講読・討議 2学期：論文講読及び受講者の発表・討議 3学期：論文講読及び受講者の発表・討議			
■テキスト なし 当初は論文等の資料を教員が用意する。			
■参考書			
■学生に対する評価 議論への参加・貢献度、発表の内容、出席を総合的に勘案。			

授業科目名： 日本語学演習（4）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名：大倉・坪井・矢澤・ 橋本・那須
■授業の到達目標及びテーマ 受講者各自の研究テーマについて、適切な問題設定を行い分析し、発表・論文にまとめ上げていく能力を培う。			
■授業の概要 日本語研究の方法と実践をテーマとする演習。受講者の研究発表とそれについての討論を中心に進める。			
■授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回～受講者による発表と討議（場合によりゲストスピーカーによる講演等を含む） 第30回：討議のまとめ			
■テキスト			
■参考書			
■学生に対する評価 毎回の出席と、年3回程度の発表を義務づける。出席・発表と、討議への貢献等を総合的に勘案して評価する。			

授業科目名： 認知意味論(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 和田 尚明 廣瀬 幸生
■授業の到達目標及びテーマ <p>認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用い自らの言葉でまとめることができる（解説できる）ようになることが到達目標である。今年度は、主に、特定の言語現象を通して語用論と文法の相互作用のメカニズムを考察する。</p>			
■授業の概要 <p>言語の意味は人間の基本的認知能力に根ざすとする認知言語学的観点から、英語と日本語における語用論と文法の相互作用について考える。</p>			
■授業計画 <p>1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 2学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 3学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ</p>			
■テキスト 第1回目の授業時に指示。			
■参考書 Ariel, Mira (2008) Pragmatics and Grammar, CUP 他、授業時に随時指示。			
■学生に対する評価 <p>評価は、プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。</p>			

授業科目名： 生成統語論(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / <u>選択科目</u>	単位数： 3単位	担当教員名： 加賀 信広 島田 雅晴
■授業の到達目標及びテーマ <p>生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用い自らの言葉でまとめることができる（解説できる）ようになることが到達目標である。今年度は、削除構文にかかわる問題を取りあげる。</p>			
■授業の概要 <p>生成統語論の枠組みにおいて、主に英語と日本語の文法現象がどのように分析され、どのように説明されてきたかを詳しく観察するとともに、生成文法の今後の発展の可能性について検討する。</p>			
■授業計画 <p>1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 2学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ 3学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 報告者の要約に基づく教員・学生によるコメントや討論 第10回 まとめ</p>			
■テキスト 第1回目の授業時に指示。			
■参考書 授業時に随時指示。			
■学生に対する評価 <p>評価は、プレゼンテーションの内容と学年度末のタームペーパーの内容を総合して行う。</p>			

授業科目名： 生成音韻論(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 山田 宣夫
■授業の到達目標及びテーマ 最適性理論の出発点となるPrince and Smolensky (2004)を前年度に引き続き読み、同理論をさらに理解するとともに、今後の発展の可能性を検討する。			
■授業の概要 英語の共時的及び通時的音韻論現象の考察を通じて最適性理論の長所と問題点（あるいは限界）を明らかにする。			
■授業計画 第1回～第4回：最適性理論出現までの経緯と同理論の概要をまとめる。 第5回～第15回：普遍的制約の相互作用に基づく音韻現象の説明に焦点を当てる。 第16回～第25回：音節理論の詳細について学ぶ。 第26回～第30回：最適性理論に基づく今後の研究の可能性と限界について考える。			
■テキスト Prince, A. and Smolensky (2004) Optimality Theory: Constraint Interaction in Generative Grammar. MA: Blackwell			
■参考書 Archangeli, D. and D.T.Langendoen (eds.) (1997) Optimality Theory: An Overview. Oxford: Blackwell. Kager, R. (1999) Optimality Theory. Cambridge: Cambridge University Press.			
■学生に対する評価 高度な内容の専門書と日頃どの程度真剣に格闘しているかを見て評価する。			

授業科目名： 英語意味論演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 廣瀬 幸生 和田 尚明
■授業の到達目標及びテーマ 独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。今年度は、文法と談話のインターフェイスに関する文献・論文を題材にする。			
■授業の概要 認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。今年度は文法と談話のインターフェイスに関する研究を扱った論文を中心に行なう。			
■授業計画 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 2学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 3学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ			
■テキスト 特になし			
■参考書 授業時に随時指示。			
■学生に対する評価 評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。			

授業科目名： 英語統語論演習(4)	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 島田 雅晴 加賀 信広
■授業の到達目標及びテーマ 独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。今年度は、主に移動現象をテーマとする。			
■授業の概要 生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。今年度は移動現象を扱った統語論研究の論文を中心に行なう。			
■授業計画 1学期 第1回 ガイダンス 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 2学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ 3学期 第1回 イン트로ダクション 第2回～第9回 学生のプレゼンテーションに基づく教員・学生による批判的検討 第10回 まとめ			
■テキスト 特になし。			
■参考書 授業時に随時指示。			
■学生に対する評価 評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。			

授業科目名： フランス語学研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青木 三郎
■授業の到達目標及びテーマ フランス語学の特典の問題について取り組むべき問題点と問題解決の方法論を学び、自らの研究課題に応用できるようにする。			
■授業の概要 今年度はフランス語における語彙の特性について、歴史的・地理的な影響、語彙と多義性に関する問題等について関連論文を講読しながら考察する。			
■授業計画 1 学期：フランス語語彙の歴史的特性について論じる。 2 学期：フランス語語彙の地理的変容について論じる。（北アフリカ、カナダ等の語彙特性について考察する。） 3 学期：フランス語における外来語の形成について論じる。			
■テキスト Roland Eluird 2000 : La Lexicologie, Que-sais-je? PUF Marie-Françoise Mortureux 2001 : La lexicologie entre langue et discours, Armand Colin			
■参考書 詳細な文献情報は授業に合わせて紹介する。			
■学生に対する評価 毎回の授業における講読、議論を通じて、フランス語の文献の読解力、批判力を重点的に評価する。			

授業科目名： フランス語学演習（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 青木 三郎
■授業の到達目標及びテーマ フランス語学研究に必要な基本的分析概念を学び、自らの研究課題に取り組む基礎を確立することを目指す。			
■授業の概要 フランス語学の取り組むべき問題をテーマ化し、文献の批判的検討、データ観察を行う。			
■授業計画 1 学期：フランス語の分析対象としての文、発話、文章（テキスト）に関する構造と機能を練習問題を通じて理解を深める。 2 学期：文の構造（統語）に関する現象（他動詞構文、使役構文、関係節等）について練習問題を通じて理解を深め、いくつかの分析方法を学ぶ。 3 学期：発話・テキストに関する現象（情報伝達、コミュニケーションにおける言語外知識と言語の関係等）を練習問題を通じ、発話理論、コミュニケーション理論についての理解を深める。			
■テキスト			
■参考書 Annie Delavaux & Françoise Kerleroux (1997) : Problèmes et exercices de syntaxe française			
■学生に対する評価 毎回行う練習問題をレポート形式で提出してもらい、問題解決のための分析能力、表現力を評価する。			

授業科目名： フランス語意味論（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 渡邊 淳也
■授業の到達目標及びテーマ フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。			
■授業の概要 フランス語（および、関連する範囲で他のいくつかの言語）におけるモダリティについて研究する。 この時間はとくに、フランス語の法動詞（ <i>verbes modaux</i> ）に焦点をあてる。それぞれの法動詞の基本的な機能を解明し、他のモダリティ、とりわけ否定との関連を考察する。			
■授業計画 関連論文の輪読、討論、研究発表をとりまぜて行なう。詳細日程は各学期初回到に相談のうえ決定する。			
■テキスト Birkelund, M. et elii (Eds.)(2003) : <i>Aspects de la modalité</i> , Niemeyer.			
■参考書 Floriric, F. (Ed.) (2007) : <i>La négation dans les langues romanes</i> , John Benjamins.			
■学生に対する評価 授業中に順次担当していただく発表に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。			

授業科目名： フランス語文法論（3）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 渡邊 淳也
■授業の到達目標及びテーマ フランス語文法論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。			
■授業の概要 フランス語（および、関連する範囲で他のいくつかの言語）における動詞の時制、叙法について研究する。この時間はとくに、フランス語の単純未来、条件法（ならびに他言語における未来時制、過去からみた未来をあらわす時制、潜在性や非現実性をあらわす叙法）に焦点をあてる。未来性・過去未来性などの時間性と、多岐にわたるモダリティとの連関に格別の注意をはらう。			
■授業計画 関連論文の輪読、討論、研究発表をとりまぜて行なう。詳細日程は各学期初回到に相談のうえ決定する。			
■テキスト Barceló, G. J. et J. Bres (2006) : <i>Les temps de l'indicatif en français</i> , Ophrys.			
■参考書 Watanabe, J. (2001) : "Le conditionnel du "discours d'autrui"" , <i>Etudes de langue et littérature françaises</i> , vol. 78. 渡邊淳也 (2004) : 『フランス語における証拠性の意味論』早美出版社。 渡邊淳也 (2008) : 「分岐的時間の表象を用いた時制・モダリティの連関の説明の試み」 『文藝言語研究・言語篇』 54. 渡邊淳也 (2009) : 「フランス語およびロマンス諸語における単純未来形の総合化・文法化について」 『文藝言語研究・言語篇』 55.			
■学生に対する評価 授業中に順次担当していただく発表に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。			

授業科目名： ドイツ語意味論（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 伊藤 眞
■授業の到達目標及びテーマ ドイツ語の意味論関係の原書文献を精読し、意味論に関する知識を深め、併せてドイツ語読解能力の向上を目指す。			
■授業の概要 ドイツ語で書かれた意味論関係の原書文献を精読し、意味論に関する知識を深め、併せてドイツ語読解能力の向上を目指す。原書文献については、最初の授業の際に、受講者と相談の上、決定する。ドイツ語のある程度以上の文法力、理解力を持っていることが受講の最低条件である。			
■授業計画 1 学期 原書で書かれた文献を精読し、ドイツ語の読解力、文法能力を向上させる。 2 学期 引き続き文献を精読しながら、ドイツ語意味論の重要なトピックについて議論する。 3 学期 引き続き文献を精読しながら、ドイツ語意味論の重要なトピックについて議論する。			
■テキスト プリントを用いる。具体的な内容については受講者と相談する。			
■参考書			
■学生に対する評価			

授業科目名： ドイツ語文法論（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 大矢 俊明
■授業の到達目標およびテーマ ドイツ語と英語の相違を適切に把握し、正しい一般化を行うための手法を身につけ、ならびに幅広くデータを見る重要性を認識する。			
■授業の概要 現代ドイツ語における話法の助動詞および不変化詞動詞を、おもに英語と比較対照しながら既存の分析の妥当性を検証する。			
■授業計画 1 学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「基本文献」を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論する。 2 学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「ドイツ語と他言語との対照」を扱った文献を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論する。 3 学期 各自がドイツ語（および英語）で書かれた「ドイツ語と他言語との対照」を扱った文献を読み、その内容を発表する。さらにそこで明らかになった問題点について議論し、正しい一般化を試みる。			
■テキスト 最初の授業の際に指示する。			
■参考書 最初の授業の際に指示する。			
■学生に対する評価 1) 与えられた文献を読み、その内容を発表し、2) 積極的に議論に加わることが求められる。			

授業科目名： ドイツ語史研究（４）	教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目	単位数： 3単位	担当教員名： 伊藤 眞
■授業の到達目標及びテーマ ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の訳読能力の向上を目指す。			
■授業の概要 ドイツ語史研究については、近年、言語的変遷だけを扱うのではなく、言語的変化の遠因となった、社会的・文化的要因にも目を向けた研究書が出版されている。本授業では、ドイツ語史を扱った原書文献を精読し、ドイツ語の歴史の変遷に関する知識を習得し、併せてドイツ語の読解・訳読能力の向上を目指す。また、Frakturで書かれた文献を読みこなす能力の習得にもある程度の時間をさく予定である。			
■授業計画 1 学期 原書で書かれた文献を精読し、ドイツ語の読解力、文法能力を向上させる。 2 学期 引き続き文献を精読する。あわせて特定の文法事項に関して議論する。 3 学期 引き続き文献を精読する。あわせてドイツ語の歴史の変遷に関する特定のテーマについて議論する。			
■テキスト プリントを用いる。具体的な内容については受講者と相談の上、決める。			
■参考書			
■学生に対する評価			